発表会の様子

平成 29 年度中学校武道授業（少林寺拳法）指導法研究事業（主催＝日本武道館、少林寺拳法連盟、日本武道協議会、後援＝スポーツ庁、勝浦市教育委員会）は 6 月 23 ～ 25 日、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）において実施された。昨年度に続き、地元勝浦中学校生徒（男子 3 名、女子 8 名）の協力を得て、日本武道協議会から刊行された『中学校武道必修化指導書』の掲載内容に沿った 3 時間想定の模擬授業を行った。

■初日（6 月 23 日）

開講式でははじめに、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が主催者挨拶に立った。

「中学校武道必修化は 5 年が経過し、第二ステージに入ります。次期学習指導要領では、武道 9 種目が並列明記されることに決定しました。また機を同じくして、日本武道協議会では設立 40 周年を記念して『中学校武道必修化指導書』を刊行いたしました。現在、全国一万余校の中学校、都道府県市区町村教育委員会等へ配布を進めており、大きな反響があります。少林寺拳法連盟の取組みとして各都道府県実施校 2 校を目標に採用校を着実に増やしていけるよう、本研究事業と指導書を活用していただきたい」

研究者紹介の後、研究者を代表し、中島正樹研究者が挨拶を行った。

「今回の研究事業はテーマが二つある。一つは魅力ある授業作りを追求すること。生徒の深い学びにつながる授業展開を目指したい。もう一つは、今回刊行された指導書の活用について検討すること。こちらについては現場の保健体育科教員に 9 武道を周知するため、日本武道館にも協力を得ながら、武道そのものに触れてもらう機会を作っていきたい」

開講式終了後、総合打合せでは、全体スケジュールと模擬授業における指導内容の確認を行った。夕食後に行われた指導案指導法予備講習では、魅力ある授業作りのためには、どのような工夫をしていくか、また学校現場にどうアピールしていくかについて検討協議が行われ、初日を終了した。

■ 2 日目（6 月 24 日）

事例研究では、今年度より国際武道大学で指導にあたっている高坂正治研究協力者から武道未経験者の学生への指導実践報告が行われた。

続いて、鈴木和樹研究協力者が「少林寺拳法初心者の技（わざ）習得に伴う身体表象形成過程」をテーマに初心者における基本的技の学習過程を分析し、技を習得するために必要な身体的表象の形成過程について研究発表した。

次に、中学生の協力を得て、小井（おい）寿史研究者を中心に模擬授業が行われた。少林寺拳法未経験の中学生は戸惑いながらも『護身術を学ぼう』をテーマに柔法の技に触れた。生徒に実施したアンケートでは、「技を覚えるのが難しかったけれど、とても楽しくできた」、「班別で練習が出来たこと、他の人の発表が見られたのがよかった」、「技は難しかったけど班のみんなと相談しながら出来たのがよかった」など少林寺拳法授業に対する前向きな意見が多かった。

終了後に授業を振り返り、研究者から次のような意見があった。

◉中島正樹研究者

今回は課題の多い模擬授業となった。技の数などを考えると 3 時間を想定した単元計画に詰め込みすぎたように思う。反復練習の時間がなく、運動量の確保が出来なかった。基本の把握が充分に出来ていない段階において、生徒自身の気づきや行動を待つのか、助言して先に進めるか、どちらで進めていくか、今後の検討課題である。

◉小井寿史研究者

T1 として 3 時間分を担当した。今までの研究事業では剛法を中心に形だけを覚えさせるという内容だった。今回は護身術として柔法を指導できるかに挑戦した。途中で混乱する生徒が出始め、考える時間が増えたことで運動量の確保が出来なかった。主体的で対話的な深い学びにつなげるため、工夫していきたい。

◉高坂正治研究協力者

護身術に焦点を当てたことで、生徒に対し、もう少し手がかりを提示した方がよかった。完成形を実際の演武という形で紹介するのはよかった。教育現場では、示範できない教員は DVD を活用することになると思うが、映像に加えて「テコの原理を利用して」のように解説を交えるとより伝わりやすい。

◉向田（むかだ）弘之研究協力者

中学生の感想には「できるようになった」と書いてあったが実際はわからない。護身術として説明したことで、生徒の不安を煽（あお）る結果となった。今回は少し目標設定が高かった。経験者としては柔法の楽しさを体験してもらいたいが、現場を考えると難しい。技のスモールステップを見直し、身近な到達点を設定し、授業で実践できる内容にしていきたい。

◉合田雅彦研究協力者

護身術として三つの技を指導するのは妥当。小手抜は左右やってみたかった。道場指導と違い、授業では評価まで必要になる。学校現場では、生徒の心の変容、行動の変容が期待される。アンケート形式の自己評価だけではなく、他者評価を取り入れ、生徒同士の評価があるとよりよいと思う。

■ 3 日目（6 月 25 日）

本事業の成果を全員で確認し、総括を行った。

まずは、少林寺拳法に興味・関心を持ってもらうことが重要。これからは普及活動や指導の質の向上が急務であり、各地域での指導者研修会等で今回刊行された『中学校武道必修化指導書』を活用していく。模擬授業の中でグループワークを取り入れ、ホワイトボードを活用したことで生徒同士のコミュニケーションを促すことに一定の成果を得ることが出来た。また、鈴木研究協力者の研究発表にあった的確な改善点の提示、目的意識・生体反応等の知見から「初心者（基礎知識がなく修正点を理解していない人）が初級者（基礎知識があり修正点を理解している人）になるために」はどのような声がけがよいか、これから新しい指導法の可能性を探っていく。

検討協議終了後に閉講式を行い、3 日間の全ての日程を終了した。